

「お姉ちゃん」

福島県玉川村立泉中学校

三年 坂 本 茅 里

「ハッピーバースデートゥーユー。」

六月十三日、今日は姉の誕生日です。二十歳の誕生日です。しかし、姉はこの世にはいません。

二十年前の六月十三日、姉はこの世に一度も顔を見せることなく、母のおなかの中で息を引き取りました。七ヶ月だったそうです。だから、私は姉の顔を見たことはありません。

私が、亡くなった姉の話を聞いたのは、小学校二年生の頃です。その時はまだ幼いせいか、「死」の意味をあまり理解できませんでした。写真などあるはずもなく、姉がいたという事実を信じるのができませんでした。でも、母から姉のことを聞いてから、亡くなった姉のことを考えるようになりました。「会ってみたかったなあ。」

「どんな顔だったのかなあ。」

と思うようになりました。毎朝、仏壇を見るたびに母から姉の話をされた時のことを思い出します。

あの時、姉はまだ七ヶ月。母のおなかの中で必死に生きている途中でした。小さくても、はっきりと顔はできあがっていたと祖母から聞いたことがあります。しかし、そんな時、父たちはおなかの中の赤ちゃんをとるか、母をとるかの選択を迫られたので

した。母も赤ちゃんもどちらもとても危険な状態で、家族は母をとることに決めました。帝王切開で赤ちゃんをおなかから出し、母には見せず、父が赤ちゃんを受け取ったのだそうです。そのときの母や父の気持ちを考えると、胸が締めつけられます。悲しくて、つらかったと思います。

私は三姉妹の真ん中です。上には高校二年の姉、下には小学校六年の妹がいます。だから亡くなった姉は、生きていれば、四姉妹の長女でした。四人も女の子だったら、きつと家中にぎやかだったと思います。今でこそそうなので、絶対にそうだと思います。

姉の命日である六月十三日。今までは一度も誕生日として祝ったことはありません。でも、今年は二十歳の誕生日で、私たち姉妹にとっても、家族にとっても大事な日でした。今年は、ケーキを用意して、姉の二十歳の誕生日をみんなで祝いしました。

私は平気で「死にたい」と口にする人が嫌いです。簡単に口にしてほしくありません。本当はこの世に生まれてくるはずだった姉のことを思えば、「死にたい」なんて言う人は自分勝手です。生きたくても生きられない人がこの世の中にはたくさんいるのです。私の姉もそうです。生きたくても、生きてくることすらできなかったのです。だから、簡単にそんな言葉を口にするなんてやめてほしいと思います。

この世に生まれてくるのができなかった小さな命。私たち家族に姿を見せることなく、あの世へと旅立ってしまった姉。姉は、生きる喜びや幸せを知りません。私たちが今、普通にできていることを経験できないまま、姉は空の上へ行っていました。そして、何一つ夢を叶えることもできないまま、姉は二十歳を迎えることになりました。

私は、お墓参りに行った時、いつも姉に話しかけ

ます。学校のことや友達のこと、家族のこと、話すことはたくさんあります。そして、姉がこの世に一人の人間として生きることができなかった分、私が姉の代わりに精一杯生きようと心に誓います。

私は、姉の存在を知る前は、すべてのことにわがままで、周りのことなんか気にもせずに、何でも自分の思い通りに過ごしていました。しかし、私には本当はもう一人姉がいたということを知ってから、我慢することを覚え、周りのことも考えて生活するように変わりました。だから、亡くなった姉は、私にとって大事な存在であり、生きがいです。姉のおかげで、私はいろんなことに挑戦しよう、力一杯頑張ろう、そう思うことができます。そして何より、どんなに苦しくて、つらいことがあっても、精一杯生きようと思うことができます。

人は一人では生きられません。誰かに支えられて生きています。そう、教えてくれたのは、いつも私たち家族を天国で見守ってくれている姉です。私は、日々の感謝を伝えるために、これから毎日仏壇に「ありがとう」を言おうと思います。

今年、姉は二十歳になりました。

「ハッピーバースデー、お姉ちゃん。二十歳のお誕生日おめでとう。これからもよろしくね。」

六月十三日は、私たち家族にとって大切な日です。